

平成 21 年度 事業 報告

自 平成 21 年 4 月 1 日

至 平成 22 年 3 月 31 日

【I】基本方針

余暇時間の増大、高齢化の進行など社会環境の変化は、人々の生活様式にも急激な変化をもたらし、国民の健康に関する意識の向上と共に、スポーツに寄せる関心は益々高まりを見せています。

このような情勢下、スポーツ科学の振興を目的とする当財団ではこの期待に応えるべく、改めて事業の重要性を認識し、事業活動の推進を図ってまいりました。

まず、健康の増進と体力向上及びスポーツに関連する学術研究の助成事業では、財団選定テーマによる研究委託並びに研究課題公募による研究助成を引き続き実施いたしました。

一方、財団法人日本体育協会への助成を行い、国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するとともに、財団法人日本オリンピック委員会に対しても、オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化を目的として同様の助成を行いました。また、スポーツ科学の国際交流推進を目的として日本体力医学会へ助成を行いました。

なお、平成 20 年度の事業成果を広く関係者に公表するため、機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.30 を発行いたしました。

【II】事業計画

(1)健康の増進と体力の向上及びスポーツ関連科学に関する研究委託並びに調査・研究に対する助成。

1)研究委託 (2 件 200 万円)

学術委員会・選考委員会において審議の結果、下記 2 件を選定し、本年度委託研究テーマとして研究を委託いたしました。

①「運動と急性上気道感染症 (カゼ) の感受性」(仮題)

東北大学 永富 良一

②「スプレーによる噴霧が人の感覚や布の熱伝達機構に及ぼす影響」

京都工芸繊維大学 鋤柄 佐千子

2)自由課題研究 (総額 1,000 万円)

全国にわたる 98 の大学または、その他の学校、研究機関より応募された 181 件の課題の中から学術委員会・選考委員会の審査の結果、下記 20 件に対し助成を行いました。

●優秀入選（各 50 万円）

- ①「競泳選手の着用する水着の形状の違いがパフォーマンス指標に与える影響」
福岡大学 尾関 一将
- ②「競泳用水着の材質・機能の違いが
水泳中の抵抗、エネルギー消費量に与える影響」
鹿屋体育大学 荻田 太
- ③「機能性靴下の衣服圧と下腿及び足部の筋疲労に関する研究」
信州大学 細谷 聡
- ④「加速度計と GPS を組み合わせた活動強度の時間空間パターン評価手法」
東京大学 梅崎 昌裕
- ⑤「体力・運動習慣とメタボリックシンドローム危険因子との関係
－“健康づくりのための運動基準 2006”を用いた検討－」
早稲田大学 樋口 満
- ⑥「動脈脈波速度の運動負荷応答を利用した血管内皮機能評価法の開発」
独立行政法人産業技術総合研究所 菅原 順
- ⑦「規則的な身体運動が骨格筋オートファジー機構に及ぼす影響とその加齢変化」
聖マリアンナ医科大学 小倉 裕司
- ⑧「伸張性収縮での筋力トレーニングが
前十字靭帯損傷患者の運動単位動員の抑制に及ぼす効果」
防衛大学校 小西 優
- ⑨「骨格筋損傷指標としての皮膚ガス中一酸化窒素の有用性」
名古屋工業大学 伊藤 宏
- ⑩「筋内電氣的ノイズ刺激による協働筋の力調節能力のメカニズム解明」
京都大学 神崎 素樹
- ⑪「虚弱高齢者でも安全に行える簡易下肢・体幹トレーニング法の開発」
西九州大学 村田 伸
- ⑫「キツイ運動は一瞬の判断を鈍らせるか？
(運動中の認知課題のパフォーマンスからの検証)」
京都府立医科大学 安藤 創一
- ⑬「ロボットハンドによる運動教示が指運動の巧緻性にもたらす効果」
筑波大学 上林 清孝
- ⑭「運動単位の閾値にサーカディアンリズムは存在するか？」
吉備国際大学 山口 英峰
- ⑮「自発運動によるアディポネクチン分泌制御を介した脳卒中予防効果の解明」
近畿大学 田淵 正樹
- ⑯「減量方法の差異から評価したウェイトサイクリング経験者の
身体特性と身体活動量増進の効果」
島根大学 原 丈貴
- ⑰「伸張性筋収縮による筋損傷が運動学習に与える影響とその神経生理学的要因」
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 遠藤 隆志

⑱ 「筋力増加に最も有効な血流制限下トレーニング運動条件の検索
－筋内エネルギー代謝の検討－」
北海道大学 絹川真太郎

⑲ 「有酸素運動後の摂食抑制に関する消化管ホルモンの動態と
食事のタイミングとの関係」
大阪市立大学 上田 真也

⑳ 「透析患者に対するラバーチューブを用いた床上トレーニングの効果」
大阪大学 島本 英樹

○選考委員（順不同、敬称略）

佐藤 祐造	馬詰 良樹	加賀谷 淳子
梶原 莞爾	川原 貴	島崎 恒蔵
下村 吉治	下光 輝一	田中 宏暁
田村 照子	永富 良一	中島 利誠
西松 豊典	西村 太良	平田 耕造
広田 孝子	福永 哲夫	藤本 繁夫
宮本 武明	吉岡 利忠	

○助成金交付 平成 21 年 7 月

○研究成果報告書提出 平成 21 年 11 月 25 日

(2)スポーツ科学の国際交流を目的とする団体の助成（100 万円）

諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的に推進するため、日本体力医学会への助成を行いました。

(3)スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（250 万円）

国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するため、財団法人日本体育協会に助成を行いました。

(4)わが国のオリンピック事業の推進を目的とする団体の助成（250 万円）

オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化に寄与するため、財団法人日本オリンピック委員会に助成を行いました。

(5)スポーツの施設・用具・衣服に関する学術的資料の収集、保存及び公開、本財団の事業推進に関し必要と思われる学術的資料の収集を図るため、日本体力医学会、社団法人繊維学会、社団法人日本繊維製品消費科学会等に対し賛助を行いました。

(6)機関誌の発行

平成 20 年度の事業内容を公表するため第 30 回研究成果報告書を中心とする「デサントスポーツ科学」Vol.30 を本年 6 月に発行し広く研究機関関係者に公表致しました。また、研究成果をより多くの方にわかり易く 理解していただく為に、「よくわかるデサントスポーツ科学」Vol.13 を作成し各関係先に配布いたしました。

【Ⅲ】活動報告

(1)機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.30 発行

平成 21 年 6 月

(2)第 31 回定時総会及び助成金目録贈呈式

日時： 平成 21 年 6 月 4 日（木）

11:30～11:45 理事会・評議員会

11:45～12:30 助成金目録贈呈式

12:30～13:30 懇 親 会

場所： 株式会社 デサント 東京オフィス

議題： ①平成 20 年度事業報告書承認の件

②平成 20 年度収支決算書承認の件

③任期満了に伴う理事・監事・評議員選任の件

(3)第 31 回学術研究委託及び自由課題学術研究助成金交付

平成 21 年 7 月 25 日

(4)第 32 回自由課題学術研究公募開始

平成 21 年 9 月 1 日

(5)第 32 回自由課題学術研究公募締切

平成 21 年 11 月 10 日

(6)第 32 回自由課題学術研究公募申請書審査

平成 21 年 11 月 10 日～平成 22 年 2 月 24 日

(7)財団法人日本オリンピック委員会、財団法人日本体育協会ならびに
日本体力医学会への寄附金交付

平成 21 年 12 月 25 日

(8)学術委員会・選考委員会

日時： 平成 22 年 2 月 24 日（水） 12:00～14:00

場所： 株式会社 デサント 東京オフィス

議題： ①第 32 回自由課題学術研究公募審査の件

②学術研究委託選定の件

③その他

(9)理事会・評議員会（書面）

月日： 平成 22 年 3 月 23 日（火）

議題： ①平成 22 年度事業計画書案承認の件
②平成 22 年度収支予算書案承認の件

以上

貸借対照表

平成22年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	13,065,815	2,462,378	10,603,437
流動資産合計	13,065,815	2,462,378	10,603,437
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	576,137,150	576,137,150	0
基本財産合計	576,137,150	576,137,150	0
(2) 特定資産			
助成金積立預金	0	10,000,000	△ 10,000,000
特定資産合計	0	10,000,000	△ 10,000,000
固定資産合計	576,137,150	586,137,150	△ 10,000,000
資産合計	589,202,965	588,599,528	603,437
II 負債の部	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本金	576,137,150	576,137,150	0
指定正味財産合計	576,137,150	576,137,150	0
(うち基本財産への充当額)	(576,137,150)	(576,137,150)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	13,065,815	12,462,378	603,437
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
正味財産合計	589,202,965	588,599,528	603,437
負債及び正味財産合計	589,202,965	588,599,528	603,437

正味財産増減計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	9,416,244	10,790,712	△ 1,374,468
基本財産受取配当金	10,659,201	10,659,201	0
基本財産運用益計	20,075,445	21,449,913	△ 1,374,468
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,139	29,999	△ 28,860
③ 雑収益			
受取利息	3,944	13,590	△ 9,646
雑収益	12,282	14,486	△ 2,204
雑収益計	16,226	28,076	△ 11,850
④ 寄付金収入			
寄付金収入	10,000,000	0	10,000,000
寄付金収入計	10,000,000	0	10,000,000
経常収益計	30,092,810	21,507,988	8,584,822
(2) 経常費用			
① 事業費			
委託研究費	2,000,000	1,000,000	1,000,000
助成金支出	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000
寄付金支出	6,000,000	6,000,000	0
資料収集調査費	825,000	1,275,000	△ 450,000
印刷製本費	6,519,513	6,964,820	△ 445,307
事業費計	25,344,513	26,239,820	△ 895,307
② 管理費			
支払報酬	1,149,997	1,197,219	△ 47,222
会議費	1,332,816	1,479,978	△ 147,162
旅費交通費	1,559,000	1,327,000	232,000
通信運搬費	71,585	71,090	495
消耗品費	0	0	0
雑費	31,462	44,480	△ 13,018
管理費計	4,144,860	4,119,767	25,093
経常費用計	29,489,373	30,359,587	△ 870,214
当期経常増減額	603,437	△ 8,851,599	9,455,036
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	603,437	△ 8,851,599	9,455,036
一般正味財産期首残高	12,462,378	21,313,977	△ 8,851,599
一般正味財産期末残高	13,065,815	12,462,378	603,437
II 指定正味財産増減の部			
基本財産評価益	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	576,137,150	576,137,150	0
指定正味財産期末残高	576,137,150	576,137,150	0
III 正味財産期末残高	589,202,965	588,599,528	603,437

財 産 目 録
平成22年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
普通預金	三井住友銀行船場支店	10,895,889	
普通預金	北國銀行大阪支店	2,169,926	
流動資産合計		13,065,815	
2. 固定資産			
基本財産			
投資有価証券	スウェーデン地方金融公社債	100,000,000	
	ノルウェー輸出金融公社債	200,000,000	
	BTM CURA HLDG FR(円建永久劣後社債)	100,000,000	
	利付国庫債券(10年)第238回5月	100,000,000	
	株式会社デサント株式(1,522,743株)	76,137,150	
基本財産合計		576,137,150	
固定資産合計		576,137,150	
資産合計			589,202,965
II 負債の部			
負債合計			0
正味財産			589,202,965

基本財産

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

投資有価証券については、総平均法による原価法によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	576,137,150	0	0	576,137,150
小計	576,137,150	0	0	576,137,150
特定資産				
助成金積立預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小計	10,000,000	0	10,000,000	0
合計	586,137,150	0	10,000,000	576,137,150

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	576,137,150	576,137,150	0	0
合計	576,137,150	576,137,150	0	0

4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	時価	評価損益
投資有価証券			
スウェーデン地方金融公社債	100,000,000	69,140,000	△ 30,860,000
ノルウェー輸出金融公社債	200,000,000	166,380,000	△ 33,620,000
BTM CURA HLDG FR(円建永久劣後社債)	100,000,000	100,020,000	20,000
利付国庫債券(10年)第238回5月	100,000,000	102,420,000	2,420,000
合計	500,000,000	437,960,000	△ 62,040,000

収 支 計 算 書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用収入			
基本財産利息収入	2,970,000	9,416,244	6,446,244
基本財産配当金収入	10,640,000	10,659,201	19,201
基本財産運用収入計	13,610,000	20,075,445	6,465,445
②特定資産運用収入			
特定資産利息収入	0	1,139	1,139
特定資産運用収入計	0	1,139	1,139
③雑収入			
受取利息収入	0	3,944	3,944
雑収入	0	12,282	12,282
雑収入計	0	16,226	16,226
④寄付金収入			
寄付金収入	10,000,000	10,000,000	0
寄付金収入計	10,000,000	10,000,000	0
事業活動収入計	23,610,000	30,092,810	6,482,810
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
委託研究費	2,000,000	2,000,000	0
助成金支出	10,000,000	10,000,000	0
寄付金支出	6,000,000	6,000,000	0
資料収集調査費	800,000	825,000	25,000
印刷製本費	7,000,000	6,519,513	△ 480,487
事業費支出計	25,800,000	25,344,513	△ 455,487
②管理費支出			
支払報酬	1,200,000	1,149,997	△ 50,003
会議費	1,200,000	1,332,816	132,816
旅費交通費	1,300,000	1,559,000	259,000
通信運搬費	45,000	71,585	26,585
消耗品費	0	0	0
雑費	55,000	31,462	△ 23,538
管理費支出計	3,800,000	4,144,860	344,860
事業活動支出計	29,600,000	29,489,373	△ 110,627
事業活動収支差額	△ 5,990,000	603,437	6,593,437
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入			
助成金積立預金取崩収入	10,000,000	10,000,000	0
投資活動収入計	10,000,000	10,000,000	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	10,000,000	10,000,000	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	500,000	0	△ 500,000
当期収支差額	3,510,000	10,603,437	7,093,437
前期繰越収支差額	2,500,000	2,462,378	△ 37,622
次期繰越収支差額	6,010,000	13,065,815	7,055,815

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金（基本財産となるもの及び特定預金を除く）及び未収入金、未払金など短期債権・債務を含めることにしている。

なお、前期末及び当期末残高は、2. に記載のとおりである。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,462,378	13,065,815
合計	2,462,378	13,065,815